

## 救急はさみ用アタッチメントの考案について

湖北地域消防本部（滋賀県）

志賀 英夫

富士野 恵浄

### 1 はじめに

世界の主要国においてテロ災害が頻発している中、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、さまざまなイベントの開催が国内で予定されている。

このような、数千万人規模の集客が見込まれる大規模で国際的なイベントにおいて、警戒を払わなければならないのが、テロ災害や緊急性の高い災害である。このような災害が発生すれば、外傷性の傷病者が多数発生することが予想されることから「救急業務のあり方に関する検討会報告書」で、外傷性傷病者に対して、新たな救急資器材としてターニケット（止血帯）の配備が推奨され、当本部においても今年度より、全救急車に積載している。

さらに今年度「集団救急救助事故活動要領」の制定や「救急事故現場への医療チーム派遣要請に関する協定」が締結され、当本部でも多数傷病者への対応が充実してきている。

### 2 考案に至った経緯

救急現場の傷病者にファーストコンタクトし、初期観察、応急手当を実施するのは救急隊であり、より正確で迅速な応急手当をするため、負傷部位を直接目視して観察することから、傷病者の衣服を救急はさみで裁断する場面は多々ある。

また、特殊災害等で汚染した傷病者の衣服を取り除く乾的除染についても、衣服の裁断は必須となる。

私たちが普段、現場で救急はさみを使用し衣服を裁断する際、次のような問題があげられる。

(1) 一人で衣服を裁断すると、衣服に「よれ」が発生し、裁断が難

しくなる。写真 1

(2) 「よれ」を無くそうと、衣服に無理なテンションを掛けて力任せに裁断すると、負傷部位に負担が掛かったり、傷病者に刃先が接触する危険がある。写真 2

(3) 補助者と二人で協力すれば確実に裁断できるが、現場によっては、隊員一人だけで裁断しなければならない場合もある。

写真 3

上記の問題を解消し、隊員一人で迅速、安全に衣服の裁断ができる救急はさみ用アタッチメント「くじら君」を考案。写真 4

### 3 考案品の概要

考案品を装着するはさみは、一般に市販され、全国の救急車に積載されている救急はさみ（通称 万能はさみ）を使用。

くじら君をはさみに装着することで、裁断面によれが発生せず、隊員一人でもスムーズに衣服の裁断が可能となる。また、くじら君は簡単に取り付けることができ、脱着に時間を要しない。写真 5

### 4 考案品の構成

考案品は一般的に市販されている、厚さ 1.2 mm のプラスチック製の板を切り抜き、熱で加工し、穴を開け作成。費用は一個 20 円程度で作成可能。サイズ：全長 12 cm × 高さ 4 cm × 幅 4 cm

くじら君は、羽があることで羽の上に布が乗り、布に張りができ、よれが発生しにくい状態となるため、くじら君が補助者の代わりとしてスムーズな衣服の裁断を可能としている。

写真 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10

### 5 考案品の利点

- (1) 隊員一人で衣服をスムーズに裁断できる。
- (2) 衣服によれが発生しないことから、無理にテンションを掛ける必要がないので、傷病者に対して安全である。

- (3) はさみの金属部分が傷病者に直接接触しないため安全である。
- (4) 安価で作成でき、使い捨てのディスポーザブルとして使用できるため衛生的である。

## 6 おわりに

今回の考案品を開発するにあたり、はさみ自体を加工し、くじら君のような形状にしようとも考えたが、従来の救急はさみとしての機能を生かすため、アタッチメント式とするのが最良策であると考ええる。

くじら君は、救急はさみに簡単に装着することができ、衣服裁断の手技や訓練を必要とせず、誰でも普通のはさみと同じ感覚で使用することができる。

今後、現場活動においてくじら君の効果の検証と改良を重ね、将来、ターニケットのように全国の救急隊が活用することで、テロ災害等における多数傷病者発生時の対応から通常現場まで、より良い救急活動が実施できると確信する。

## 参考文献

総務省 消防庁

「平成29年度 救急業務のあり方に関する検討会報告書」

写真1



「よれ」が発生する

写真2



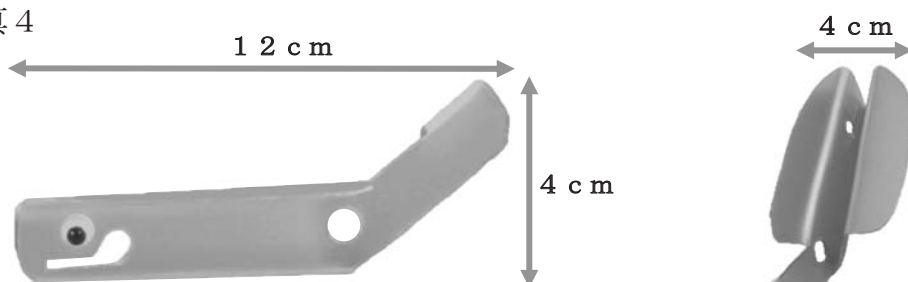
刃先の接触危険

写真3



補助者と二人で裁断

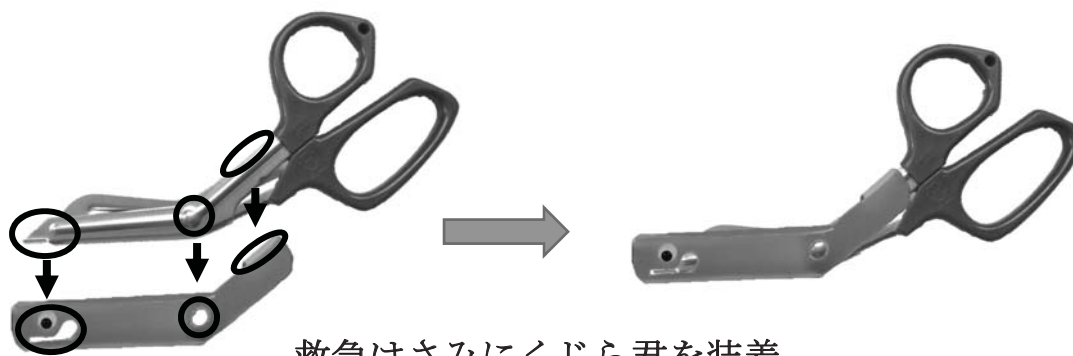
写真4



横からの画像

上からの画像

写真5



救急はさみにくじら君を装着

写真6



羽

写真7



「よれ」が発生しない

写真 8



写真 9



写真 10

